令和６年度　朝霞市立朝霞第二中学校　学力向上課題解決プラン

学校教育目標（目指す生徒像）

〇自ら学ぶ生徒　〇心豊かな生徒　〇心身を鍛える生徒　〇勤労を尊ぶ生徒
よりよい集団づくりのために主体的に活動する生徒（自治）
思いやりを持ち、相手の立場に立って行動する生徒（友愛）
自ら考え、知識を活用し、進むべき道を探求する生徒（真実）

学校経営方針

⑴「教育は未来づくり」を理念として
・生徒の望ましい変容を目指し、この時代を生き抜く力を着実に身に付けさせる。
⑵組織体として5つのワークを合言葉に
・ヘッドワーク・フットワーク・ネットワーク・ハートワーク・チームワークを合言葉に組織力を高め、お互いがフォローし合い、認め合えることを大事にしたい。
⑶日常の学校生活は「凡事徹底」を貫き、「凡事一流」へ
・当たり前のことが当たり前にできる学校を継続させる。
⑷校務分掌組織を活性化し、PDCAサイクルによる教育計画の実施
⑸ワークライフバランスを意識し、働きがいのある職場づくり
・月45時間、年間360時間を上限とし、業務削減に全力を尽くす。

学力に関わる生徒の実態・特徴

県学力・学習状況調査結果から、３年生は国語では最上位のレベルに属する生徒のレベルが３３から３６へと上がった。また、最下位のレベルに属する生徒のレベルが１３から１６へ上がり、ボトムアップすることができた。数学では全てのレベルにおいてアップすることができた。２年生においても、国語は最上位のレベルに属する生徒のレベルが３０から３３にあがり、最下位のレベルに属する生徒のレベルが１０から１３に上がった。

来年度の研究開発学校指定研究発表に向け、主体的・対話的で深い学びの実践という考えから、さらなる授業の工夫・改善に取り組み、研修を行うところである。

学力向上の手立て

本校研究主題　『主体的・対話的で深い学び実践』 ～認められる経験から自信と主体的な姿勢を育てる～ の達成のために、以下の３つの取組をどの教科でも意識をして実践していく。
①学習指導要領を踏まえ、新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実に取り組む。【何ができるようになるか・何を学ぶか】
②主体的・対話的で深い学びの観点から、授業の工夫・改善に取り組む。【どのように学ぶか】
③ICT機器活用から、個別最適化された学びや創造性を育む学びの実現に取り組む。【GIGAスクール構想】

各教科の授業改善の手立て

【国語】・語彙力をつけ、表現力を養いつつ言語活動を行い、生徒の思考力、判断力、表現力などの国語力の向上を目指す。　【学期ごとに評価　Ａ Ｂ Ｃ】
【数学】・問題演習の時間を毎時行う。（毎時間１０分以上）　【学期ごとに評価　Ａ Ｂ Ｃ】
・タブレットドリルやeライブラリーを活用する。
・教え合い活動を通して、生徒たちの課題解決能力の向上を目指す。
【社会】・思考力・判断力・表現力を付けるためのレポート作成の機会を充実させる。　【単元ごとに評価　Ａ Ｂ Ｃ】
・単元コンパスの取組を工夫し、課題に対して主体的に取り組むようにする。
【理科】・身近な事物・事象と関連付けて考察し、基礎的・基本的な知識の定着を図る。
・デジタル教材なども活用し実験・観察における技能・思考力の向上を目指す。　【学期ごとに評価　Ａ Ｂ Ｃ】
【英語】・授業内で既習文法を使ったQ-Aを行い、正しい受け答えを繰り返し練習することで、基礎的・基本的な知識の定着や表現力の向上を図る。　【単元ごとに評価　Ａ Ｂ Ｃ】
・単語の発音やイントネーションの発音を正確に練習し、すべての生徒が音読できるようにする。
【体育】・思考を高めるための学習カードの記入をする。　【単元ごとに評価　Ａ Ｂ Ｃ】

【美術】・ものをよく見る力（観察力）を養う活動を必ず取り入れる。（デッサン、鑑賞活動など）　【２か月に１回評価　Ａ Ｂ Ｃ】
【音楽】・音楽記号（強弱記号・速度記号）の意味を理解し、表現に生かす。　【学期ごとに評価　Ａ Ｂ Ｃ】

【家庭科】・生活に関心を持ち、自ら課題を見出し、自ら判断をして解決を図ることができるような学習活動を充実させる。　【前期・後期ごとに評価　Ａ Ｂ Ｃ】
【技術】・社会で利用されている既存の技術を、社会的、環境的、経済的な側面から検討する話し合い活動の時間を設け、対話的な授業を実践する。　【前期・後期ごとに評価　Ａ Ｂ Ｃ】

課題解決に向けたその他の取組

読書活動の充実	言語活動の充実	授業・補習の充実	授業規律の徹底 【授業の約束】	家庭学習の充実
・毎日１０分間の朝読書を行う。 ・学期に１回、１～２週間単位で読書週間を設け、毎朝１５分の朝読書を行う。 ・月に１回程度、図書委員による読み聞かせ活動を行う	・基礎的、基本的な知識・技能の活用を図る学習活動を充実させ、各教科等で話し合い活動の場面を意図的に設定する。 ・生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返える活動を計画的に取り入れる。	・教師がいつでも互いの授業を見合える環境づくりをする。 ・小テストの計画的な実施。 ・定期試験前の放課後学習会等を実施する。 ・夏季休業中の学習会の実施する（各学年）。 ・ICT機器を有効活用し、視覚に訴える授業を実践する。	１休み時間に授業準備 ２チャイム前着席 ３正しい服装と美しい教室 ４大きな声であいさつ・返事 ５学習の「見通し」と「振り返り」 ６積極的な授業参加・挙手発言 ７忘れ物ゼロ	・日々の復習の習慣化 ・保護者との連携 （家庭学習に取り組む環境づくり） （望ましい生活習慣の育成） ・やりとり帳を活用した生徒及び家庭との連携